

# < 続ゴミゼロ集会 > ローカルデポジットとゴミ有料化

徹底討論

99.7.17 「ゴミプラザ静岡」市民ネットワーク 壺阪道也

## < 現状分析 >

**< 建て前 >**  
 大量生産・大量消費は大量の廃棄物を生み出し、次の世代に大きなツケを残そうとしている。今こそ循環型経済社会が求められる。

**< 本音 >**  
 「大量……廃棄」社会の原動力・最大の犯人は企業・事業者？。でも同時に「豊かさ？」「便利さ？」も与えられている市民・消費者も喜んで共犯者になってしまっている。だから事業者からゴミを押し付けられても腹も立たない？  
 環境問題を考えているとされる人まで光沢加工の白い紙・使い捨ての弁当箱・ペットボトルを大量消費している！

本当にあなたはそう思っていますか？  
 小淵首相 -

リサイクルは循環型？

## 循環型社会      リサイクル社会

注：リサイクルがいつも循環型とは限らないという意味

回収・リサイクルされたものは元の製品に戻っているか？費用は受益者負担か？  
 別物になっている場合それは必要なモノ？使われている？  
 循環がうまくいかない場合でもその費用は受益者が負担しているか？  
 リサイクルによって環境汚染が引き起こしていないか？  
 リサイクルが大量消費の言い訳に使われていないか？

**< 汚染者負担 = 受益者負担の原則 >**  
 汚した者・得した者が責任を持って復元費用・リサイクル費用・処理費用を負担する

**< 容器包装リサイクル法 >**  
 市民 ... 分別  
 行政 ... 回収  
 企業 ... 再資源化

注：東京ルールは事業者に回収をやらせようとしたところが画期的

## 「御殿場RDFの経験から」のお話しに期待するもの

そもそもうまく動いているの？  
 「すべての可燃ゴミを固形化燃料に」は理想のリサイクル？ (= 循環型)  
 ゴミ処理は行政の仕事？だからリサイクルも行政の仕事 (= 税金の使い方？)  
 大量生産・大量消費を助ける大量リサイクルにはならないの？  
 大量生産・消費・廃棄の抑滞効果ある政策は何でしょう？

**東京ルール (自主回収の適用)**  
 都民 ... 分別  
 事業者...回収・再資源化  
 行政 ... 仕組みづくりのリーダー

## < 5月30日ゴミゼロ集会で目指した事・だからデポジット・ゴミ有料化！ >

### < 98.12.5 荻原講演の要旨 >

私は“ゴミおたく”、でもそれは人に通じない。

お店の人は親切心でゴミを配り、同僚はゴミの現状を知っても生活を変えない！

モラルに頼ってはいはダメ！法規制と有料化・デポジット

トイでカバンが多い理由...法による規制・有料化

スーパーではポストでゴミ料金が安くなる.....等々

### < 99.5.30 安井講演の要旨 >

東京都ゴミ有料化 困った・腹が立った。でもプラス思考で

商店街の知恵でデポジット 費用は商店街負担でも商店街の活性化

モラルもない学生、生き残り競争の中での自分のことだけ考える商店主、未来・地球・環境のためのゴミ問題ではなく「儲かる！楽しい！」ゴミ問題。

行政に頼る方法には限界がある。遊び心に欠ける・依存心は発想を貧困に

## 2人の講演の共通項 =

**「人々のゴミ問題への動機はモラルではダメ！」**

**「安易に行政に頼るゴミ処理・リサイクルシステムはダメ！」**

酒屋ルートでのデポジットは現存する グループ購入ではデポジットを実践している 企業だって考え始めている 法と行政の役割をもっと整理してみれば...。 県内の初島だってローカルデポジットを実践している。

パネルディスカッションからいろいろ見えてくるはずだったのだが.....。

### < 目指した結論 >

1. 禁止・規制が一番！できないなら抑制効果のある政策 = デポジットと有料化を！

「ゴミ有料化とデポジット」ゴミを捨てない方が得をする社会を！

**順番は待ってはいられない。できることから即実施！**

2. 大量の廃棄物を押し付けられて消費者はもっと企業に対して怒ってもよいのだが.....。何故怒らないのだろうか？当面困らないから？.....

3. 行政（国民の税金で成り立っている）の役割は何だろうか？

・国民の利益誘導・「(行政から予算を) (地球から) 盗ったモノ勝ち！」からのサヨナラ！

4. 初島のデポジット実験をどう見るか？（行政主導のデポジット）

・デポジットの宣伝効果あり。しかし、.....。 早稲田式デポジットだってある！

## <寄せられたゴミ有料化反対の意見>

「受益者負担」ではなく、製造者負担であるべきだと私は思います。

フジフィルムはドイツ市場からの撤退（ドイツ式製造物責任法に適應できなかった）を教訓にして、使い捨てカメラの再生化（再製品化）に取り組み、今では95%（もっと高いかも）以上再利用しているそうです。つまり、日本の企業はゴミになる製品をこのまま作り続けていくと国際競争力は、どんどん落ちていくわけです。市場原理はこのように働いているのですから、税金を使う、あるいは消費者が負担するのは、ナンセンスです。

（環境圧力の中、企業も変わらざるを得ない状況に市場原理上も押し込められている。だけど消費者負担が何故ナンセンスなのか？が語られていない）

ゴミを捨てるときにお金を払う(ゴミ有料化)としたら

今でも、各自治体の間でごみの押し付け合いが起こっている。今でも観光地に「ゴミは持ち帰りましょう」のキャンペーン看板がある。静岡県境で「観光地からのゴミ持ち帰りは止めましょう」の看板が無いのが不思議である。これらの看板は、地元の税金でよそ者のゴミ処理はしたくない、「ゴミよあっちへ行け」思想の現れである。静岡市がゴミ有料になれば、わざわざ観光地からゴミを持ち帰ることなどする訳が無い。逆にドライブがてら隣町にゴミを捨てに行くだろう。トラックで冷蔵庫 10 台を山に捨てに行けば、3万円のアルバイトになるとすれば、やる奴が出てくるかもしれない。今でも山で多くの不法投棄ゴミを見かける。電車の中で食べたお菓子の袋や、読みかけの週刊誌は家に持って帰らないだろう。子供会で海岸掃除をして、ゴミをたくさん集めた子供からは300 円を徴収する、少ない子は 100 円でよい、といった漫画が描かれるかもしれない。有料化して不法投棄されたゴミを誰がどう処理するのか問題になる。ゴミの日にはゴミ集積所に一人ずつ警官が立つ。有料袋でない人は追い返す。と言ったことが必要になる。県内ある地区で、粗大ゴミ集積所に夜警を立てているという嘘みたいな本当の話もある。有料でない袋に入ったゴミは収集されないでいつまでも集積所に残っている。誰が処理するのか？ ゴミ処理にお金がかかるから捨てる人からお金を取りましょう案 には反対です。

ゴミ処理費用は製造・輸入段階で懸けるのがよいと思うのです

（ゴミ有料化は不法投棄を誘発する。かもしれない。しかし...「不法投棄には罰則、取り締まりというものを講じていく。泥棒がいるからと商品をタダにはできません。もし商品が全部タダだったら泥棒は一人もいなくなります。だから不法投棄を恐れて有料化をやめるということではできないのです。」荻原弘子さん 12月5日講演より。今は余りにも安易に捨てることができる。確かにごみ有料化によって混乱は予想される。そこを通り抜けて新しいルールが確立されると思う。）

	回収率		利用率	
	1980年	1994年	1980年	1994年
日本	45.1	51.7	52.0	53.3
韓国	38.0	55.5	73.9	71.9
インド	44.6	54.9	64.1	71.4
イギリス	32.0	35.3	58.6	65.8
ドイツ	35.3	59.3	40.8	58.0
イタリア	29.6	30.3	46.1	49.7
フランス	27.5	36.1	40.8	48.3
オーストリア	31.4	66.1	39.0	40.1
中国	11.9	22.0	30.4	38.1
アメリカ	26.9	40.9	27.6	35.8
スウェーデン	31.3	57.6	12.3	15.6
フィンランド	21.0	34.9	4.9	4.8

「世界のゴミ回収率・利用率の動き」

## 御殿場・小山RDFセンターとは？（紹介パンフレットより）

### Refuse（廃棄物）Derive（得る）Fuel（燃料）

<施設名> 御殿場市・小山町広域行政組合ごみ固形燃料化施設  
（御殿場・小山RDFセンター）

<所在地> 静岡県駿東郡小山町桑木445-1

<敷地面積> 22,288㎡

<建物及び延床面積> 工場棟 6,360㎡ 管理棟 1,032㎡ その他 232㎡

<建設工事費> 79億2千70万円(契約金額)

<着手> 平成7年10月16日

<完成> 平成11年3月10日

<設計・施工> J-カールグループ 三菱商事・石川島播磨重工・荏原製作所・ゾク共同事業体

<処理方式> 固形燃料化方式 RDF(J-カール方式)

<処理規模> 150t/15h(5t×15h×2系列)

#### <代替エネルギーになる固形燃料です>

RDFは原料となるゴミを約3分の2に圧縮、また乾燥しているため、工場外で運搬が容易です。石炭の2分の1のエネルギーを有していますので、石油や石炭などの代替エネルギーとして、マシな観点からみても環境負荷の軽減に貢献します。

#### <長期保存が可能です>

RDFは添加物の作用に加え、乾燥しているため長期保存をしても腐敗しにくく、ゴミの臭いもほとんどありません。

#### <地域へ還元できるリサイクル型エネルギーです>

RDFは、温熱・冷熱・電気などとして、地域へ還元できるリサイクル型エネルギーです。例えば、一般家庭から排出されたゴミから成形したRDFを燃焼させ、地域冷暖房として病院・文化施設・スポーツ施設へ供給することが可能です。現在御殿場市内の温泉センターや製薬会社の研究所用冷暖房の燃料として再利用しています。

## ごみ処理方式比較表（焼却・固形化）

項目	焼却（ストーカー）方式	固形化燃料（TE）方式	固形化燃料（カトレル）方式
1．燃焼性能・固形化性能 （ごみ質への対応）	水分が多いごみ質の場合は乾燥に留意する必要がある。 プラスチックが多い高質ごみは含有率20％程度まで焼却可能。 汚泥の混焼は処理量の15％程度まで可能（乾燥した場合は30％程度まで可能）	水分が多いごみでは、水分乾燥のための燃料の消費が多くなる。 プラスチック量がふえることによって、固形燃料のカロリーは増加するが乾燥機での溶着や発火が危惧される。 固形燃料化不適物の手選別が必要 汚泥の燃料化については、水分乾燥のための燃料の消費が多くなる。	生石灰（CaO）を生ゴミ中に混合攪拌する際の加水分解反応により、水分が排除されるため、乾燥はTE方式に比べて容易。 プラスチック量の増加についてはTE方式に対し乾燥温度が低温であるため、溶着や発火の危険性は少ない。 汚泥の燃料化については、TE方式と同じ。
2．最終処分残渣の質	埋め立て地で十分な覆土が必要 飛灰についてはセメント固化等の処理が必要である。	固形燃料の焼却主灰の質は比較的安定している。 固形燃料化不適物があるため、不適物の焼却または埋立処分が必要 飛灰については、焼却と同じ	TE方式と同じ。
残渣の量	ほとんどが焼却灰であり、飛灰はわずかである。 焼却主灰：約90％ 飛灰：約10％ 焼却灰の量は、処理量の15％以内である。	固形化燃料の焼却残渣（灰）の量は17％である。 総合残渣量については、固形燃料化不適残渣を考慮すると埋立地容積量は焼却方式と大差ない。 （流動床式ボイラでの燃焼は飛灰の量が多くなり灰固化処理コストがかかる。）	TE方式と同じ。
3．公害防止対策 起動・停止	全連運転の場合起動停止時間は問題とならない。 准連で通常の起動：約30分 准連で通常の停止：約30分～1時間	乾燥機以外の機器の起動停止は短時間である。	TE方式と同じ。
ばいじん対策	バグフィルターの設置により十分対応できる。	焼却方式と同じ。	焼却方式と同じ。
塩化水素対策	炭酸カルシウム等のアルカリ剤を投入することにより対応できる。	固形燃料の中にアルカリ剤が混入されているため、塩化水素発生量は少ないが、公害防止基準によってはアルカリ剤噴霧装置を燃焼ボイラに設置する必要がある。	TE方式と同じ。
窒素酸化物対策	出口濃度は通常150PPMまでは燃焼制御により抑制できる。 150PPM以下とするには、アンモニア吹き込みによる直接還元脱硝法がある。	固形化燃料の燃焼はごみの直接燃焼よりも安定しているため、抑制は容易。	TE方式と同じ。
ダイオキシン対策	バグフィルターの設置で対応できる。	正確な燃焼データは現在公表されていないが、ごみの直接焼却より対策は容易。	TE方式と同じ。

項目	焼却（ストーカー）方式	固形化燃料（TE）方式	固形化燃料（カトレル）方式
排水処理対策	汚水処理後炉内噴霧によりクローズドシステム化できる。	同一敷地内に発電設備・処理不適残渣用焼却炉等を設置すれば、その炉内噴霧により処理が可能。	TE方式と同じ。
4．維持管理	毎年多大な補修日数が必要となる。	運転休止している、土・日・祭日又は夜間に補修が可能。	TE方式と同じ
5．作業環境	灰出し設備付近に若干粉塵の発生があるが換気と水打ちにより対処可能。	工場内部の粉塵発生は多大であるが、常時作業スペースの気密及び換気により対処可能。 工場全体の換気及び粉塵捕捉は不経済となる。	TE方式と同じ。
6．余熱利用・燃料利用	ごみは炉内で数時間かけてゆっくりと燃焼されるので、排ガス量が安定しており、蒸気発生量の変動が比較的少なく、発電が可能。	固形化燃料の燃焼は安定しているため、熱利用は容易であるが、ボイラコスト及び設置スペースの点で油焚ボイラに比べ割高。 乾燥機に固形燃料を使用する場合、生産された固形燃料の46%を消費する。 発電が可能。	固形化燃料の燃焼は安定しているため、熱利用は容易であるが、ボイラコスト及び設置スペースの点で油焚ボイラに比べ割高。 乾燥機に固形燃料を使用する場合、生産された固形燃料の15%を消費する。 発電が可能。
7．操作性・制御性	ごみの焼却状態が比較的安定し易いため、操作がし易い。 自動燃焼装置（ACC）を採用することによってさらに燃焼の安定性を増すことができる。	設備の起動停止は容易である。 24時間連続運転の必要がない。	TE方式と同じ。
8．建設費 設置面積	固形化方式と比べて大きい。	焼却法式と比べて少ない。	焼却法式と比べて少ない。
建設費	固形化方式と比べて高額。	焼却法式と比べて安価。	焼却法式と比べて安価。
9．維持管理費	TE方式と比べて安価。	焼却法式と比べて高額。	焼却法式と比べて安価。
10．建設実績	歴史が長いので多い。	少ない。	国内での建設実績は無い。 既存の粗大及びコンポスト施設の技術で対応可能。
11．粗大ごみ処理施設との関連	破碎残渣の殆どを焼却により減容化することが可能	破碎可燃物のみ固形化が可能。	TE方式と同じ。
12．その他	ごみの処理方式としては最も一般的な方式	小規模な処理施設に対して有効な方式	中規模の処理施設に対して有効な方式